

vol. 35

# A U T O Jumble

We always suggest how to build up real road-going sportcar.  
This magazine is dedicated to the simply stunning driving-fun.

[オートジャンブル]

排気系はどこまで  
チューンできるか

進化する  
FFスポーツサス

特別企画 詳細メカニカルdata

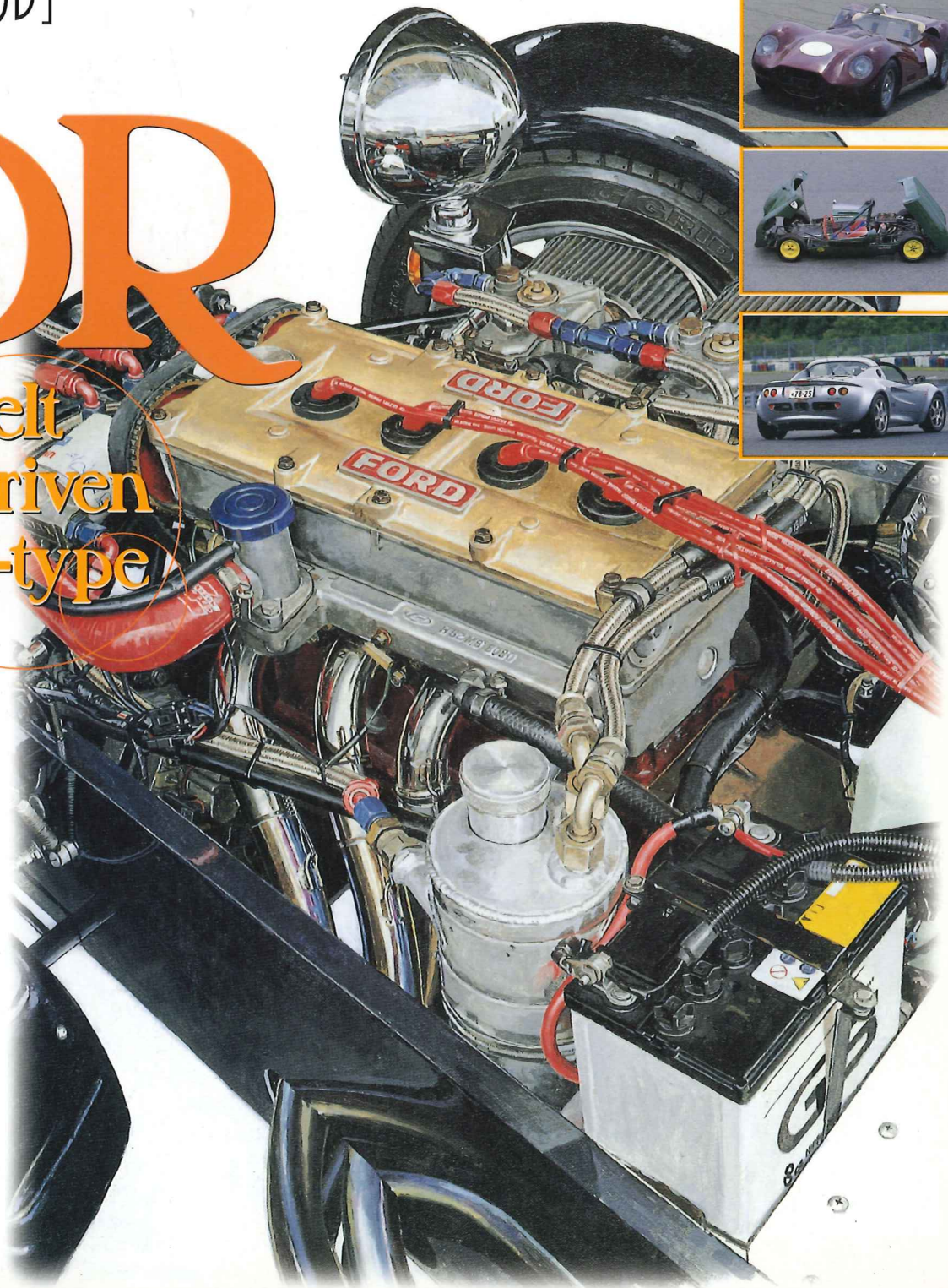
エリーゼ・  
サービスマニュアル



# BDR

誕生の真実

Belt  
Driven  
R-type



# ビーエムはサーキットがお似合い BMW CUP

サーキットが似合うハコ車と言えば  
BMWとアルファロメオがその筆頭だろう  
後発のイベントの感が強いBMWカップだが  
そんなハンディはものともせず  
今、BMWカップは熱い戦いが繰り広げられている



BMWカップのスタート直後の様子。こういったショットを見ると、やはりBMWはサーキットが似合うと改めて実感する。



finaのスポンサーをゲットしているのでしょうか、ボンネットのステッカーが特大ですね。胸組みをしてパッチリ決めているのがオーリー選手。予選クラス5位・決勝4位の成績はまあまあと云ったところでしょうか。注目はホイール。なんと、5シリーズの純正タイプを履いている。



エンジンは基本的にノーマル。ストラットタワーバーとマスターシリンダーはガルト製、フロントスポイラーはBTCCで使われているものと同じ形状で、サイドとリアスポイラーはMテク製を装着。ピロアッパーはプロジェクトミュー、タイヤはアドバンの0032R、リアのタワーバーはX型に付け専用アッブを回っている。



恒例のシャンパンファイト。僕れのお立ち台をゲットしたのは松浦選手。2位には富山選手、3位には高橋選手が入った。表彰台の雰囲気やバンドなどに比べると、心なしか大人びた印象を受けるのは気のせいでしょうか?

## result & race report

### ■318is CUP

順位	名前	車名	ベストタイム
1位	松浦秀昭	RMS ZZZ	1'12.502
2位	富山亮平	BMW318is	1'12.442
3位	高橋孝哉	ウエッススポーツ318is	1'12.016
4位	オーリー	fix SPL 318is	1'12.962
5位	佐藤博介	BMW Z3	1'13.198
6位	RS Daglous	BMW318is	1'13.015

予選ではウエッススポーツ318isがM3にコンマ2秒差まで迫るタイムをマークした。E30-M3も古さが隠せなくなってきたか。決勝では予選3位の松浦選手が勝利し、ポールポジションだった高橋選手は3位という結果になった。

### ■M3

順位	名前	車名	ベストタイム
1位	FAITHコバヤシ	G.S.甲府M3	1'11.060
2位	荒木英将	GARAGE ARMS M3	1'11.514
3位	HIDE	BMW E30 M3	1'11.299
4位	福田健郎	BMW E30 M3	1'12.935
5位	ミドランジャー	BMW E30 M3	1'13.200
6位	Waki	BMW E30 M3	1'12.474

ポールポジションを獲得したNo.89TOMO選手。決勝でも他車よりも約1秒速いラップを刻んでいたが10周目にリタイア。代わってトップに立ったのは予選3位のFAITHコバヤシ選手。荒木選手、HIDE選手がその後に入った。



このクルマは、バクトールというショップが手掛けたもの。だから、同店のオリジナルパーツがあらごちらに装着されている。まず驚くのはエアフロメーターへの空気の流れの方法。通常エンジンルーム内にあるダクトを延長して、なんとフロントライント部から取っている。本来ハイビームライトがある場所にダクトが設けられているのだ。足回りはTRDをベースにしたオリジナル部品を装着。タイヤはアドバンA048のSコンパウンド。ブレーキはノーマルだがパッドはアウトシュボルトを使用。「M3は足が決まれば速くなる」



写真中央が唇のインテーク部。確かに、ヘッドライトハイビームが挟み取られている。室内に張り巡らされたローケルゲージは同店オリジナル。シフトノブ&シャフトもオリジナル商品だ。BMW M POWERという文字が誇らしげに刻まれているエンジンは、基本的にノーマルだが、話題のノロジーヘッドワイヤを組み込んでいる。圧縮・引張りに対していかに強度がありそうなストラットタワーバーもオリジナル。ヘッド上部を通すのを避けて、エンジン後部を通しているところがアイデアか。高性能なパーツ群は高性能なクルマにはマスト、という訳でこのBMW。予選ではポールポジションを獲得した。



予選クラス1位、混走で行われた決勝戦では、総合でもM3を抜いて5位につけたウエッススポーツ318isの高橋選手。ピックアップポイントを若干上めにセットしてあるので、車高を落としてもストロークを稼げる足回りになっているという。



エンジンルーム内での注目は、よけいな熱気などを吸わぬようエアフロ一回りをガードしてある点。マフラーは坂東オリジナルに交換されている。足回りはメルヴェの車高調を寄り、これにスイフトのスプリングが巻かれている。リアのショックはTRD製を装着。走る性根に関わる部分は一応手を入れている。

# ハンデタイムはスリリング PANDA CUP

街中で見かけるバンダはかわいい  
だが、レース用バンダのように車高を落とす  
迫力あるマシンに様変わりする  
全エントリー23台で組まれた今回のレースも  
各選手の間で楽しい週末バトルが繰り広げられた

予選では見事ポールポジションを獲得したマックヨシノ選手。さすがはWRCドライバー。やはり並の速さではありませんでした。極限まで速いのは、ダートでも舗装でも基本は同じなのでしょうね。



バンダってレースで走っている姿を見ると、攻めているという感じより耐えているという感じがするんですけど。でも走ると速いからやっぱり楽しいのかな?



元気に走り暴れ回った後は、シャンパンファイトで暴れ回る。ウー、コックが抜けなかったらどうしよう、なんてことを考えながらトロフィーを持つのは、まさに至福の瞬間なのだ。

## result & race report

### ■C1

順位	名前	車名	ベストタイム
1位	坂本博一	FIAT PANDA	1'15.997
2位	マックヨシノ	StreetLife Perlino PANDA	1'16.463
3位	橋本幸弘	Panda Trofeo Bialbero Edition	1'15.313
4位	林亨	Loose Duck PANDA	1'17.006
5位	鈴木進夫	FIAT PANDA 1000	1'17.986
6位	NFRIT山本	NORO's quattro1号	1'18.117

トップから3位までの差がコンマ3秒と予選から白熱した瞬間を見たクラス1。決勝も最終上位3台の争いとなり、予選3位の坂本選手が優勝した。

### ■C2

順位	名前	車名	ベストタイム
1位	50'S純ちゃん	NORO'S GULFスベアチーレ	1'20.271
2位	ボス	キャバリーノランバンダ	1'21.570
3位	吉田由美	FIAT PANDA1000	1'21.028
4位	行がねハジメ	バームクーヘン1号	1'22.968
5位	船木研	MOMO-PANDA	1'21.985
6位	佐藤孝洋	FIAT PANDA 1000	1'23.044

予選ではクラス1位だった吉田由美選手だが、決勝になるとペースが上がらず、2台に抜かれてしまう。結局、予選2位の50'S純ちゃん選手。予選3位のボス選手がそれぞれ1位、2位となり、吉田選手は3位でチェッカーを受けた。



エンジンルームを覗くと、ブラックコートやエアクリナー、タコ足やタワーバーが装着されている。足回りはビルシュタインのLスポルト。ただし、スプリングはノーマルかP.C.A指定部品が義務づけられている。リアウィンドウはアクリル製、室内にはカーボンバケットシートが装着されている。

クラス1、3位に入賞した橋本さん。このバンダにはビルシュタインを少し改造した足回りが装着されている。ブレーキはバンダよりも径が大きいセレクトクスのものをチョイス。タッチ&



フィールともに満足できるものに愛を注いだと言う。タイヤはミシュラン。なぜか銘柄は不明というが、コンパウンドはメディアムを選んでいるとか。非力なバンダは、メディアムがオススメ。



ロールバーの装着方法がこのバンダの注目すべき点。エンジンの写真と合わせて見ていただくと分かりやすいが、なんとロールバーがエンジンルームまで伸びており、ストラットアッパー部に溶接止めされている。これでスカットルシェイクを抑え、フロント部の剛性をアップさせているのだ。これはかなり強く補強と言える。マフラーはなんと900ccのオトバイのものを加工して付けてある。がこれに本当に排気効率がアップするのだろうか。

